

茨木高校野球部

OB会報

発行

大阪府立茨木高校

野球部OB会

人生八十年の時代に

西尾 光高
(高23回)

私が茨木高校野球部に入学したのは、高校一年の夏休み明けの事でした。中学生の時も野球部に所属した事がありました。怪我の為に一年間だけでした。茨木高校に入学してから、たいして野球をやりたい！という気持ちはもっていませんでした。そう、あの夏の試合を見るまでは…

私が高校一年の時です。夏の暑い盛り、夕方になってもその試合は終わっていませんでした。延長18回、ついに0-10の引き分け再試合となりました。三沢高校と松山商業の甲子園での決勝戦でした。それを見た私はコレや！と思い、その

足で茨高野球部に入学したのでした。

当時の野球部には一年生が6、7名いました。しかし中学から野球をしていたのは数名でした。私は一年生とはいえ野球の経験があったので割と早い段階から試合に出ていました。私が所属していた中学の野球部は近畿で1位になった程の強さだったので、練習は大変厳しいものでした。それに比べると茨高野球部の練習はほとんどきつくりありませんでした。しかし現在もそうであるように茨高は当時から誰もが知ってる進学校でした。大学入試まであと二千何百時間しかなく、さあ大変や！という事で私の入学時には6、7名いた一年生が高校二年の冬には二人になってしまいました。あれはつらかったです。

そして高校三年の夏、部員は一年生を含めて何とかな十五人という陣容でした。一年下には上手な人が多く、何とか夏の大会の一回戦は勝つことができました。そして二回戦、対戦相手はその年のセンバツに出場した強豪・北陽高校でした。私はピッチャーでしたが、投げたは打たれ、打たれたは投げと

散々な状態でした。試合は8-1の7回コールド負けに終わり、私の夏もそこで終わりました。

今振り返りにも中途はんばな野球だったように思います。自分の意志で、もつと積極的に野球をやっていたらばもつとうまくなっていたのかも、と思うこともあります。でもそれはきつと間違いです。そのころの私はきつと自分なりに一杯の野球をやっていたんだと私は思います。2回戦負けだつていいじゃない。一番大事なのはどれだけ自分が努力したかです。後輩の皆さんにはそのところをわかっていただきたいと思います。これは野球だけでなく、生きていく上で何をやるにしても言える事です。

私は野球部で主将として一年間を過ごしました。この事は、後々の私の人生の中においてかなり大きい出来事だったように思います。主将候補は何せ2人しかいなかったのですから、どちらがやっても同じようなものだったのかもありませんが、部員数が少ないとはいえ、人をまとめることの難しさ、主将としての責任感、その他いろいろなる事をこの一年間で学びました。

野球部を引退し、高校を卒業し、浪人を経験し、就職、結婚、四十八歳の現在に至るまで、色々な経験を積んできました。長男は今年で二十一才、下の娘は十八才になります。高校生の頃はヤンチャだった私も今は家族を養うために日々仕事をし、自分の家族を守ることの喜び・幸せを知りました。

人生は長いのです。八十年生きることを思えば、高校三年間なんてほんの通過点に過ぎません。しかし私はその三年間で茨高野球部員として過ごした事で意義のあるものにする事ができたと思っています。

後輩の皆さんに私が伝えたい事は自分を幸せにできるのは自分だけであるし、自分を不幸にできるのも自分だけである、という事です。繰り返しになりますが大事な事は自分がどれだけ努力したか、なのです。結果だけを見て批判する人はたくさんいます。でもその時に自分が一杯の事をやっていたなら、あなたは幸せなはずですよ。そして、後悔のない人生を歩んでいく事でしよう。悔いがさっぱり残らないぐらいに一生けんめいに頑張ってください。そして、俺はやったぞ！と胸を張って言えるような高校三年間、ひいては人生にしてください。健闘を祈ります。

部長より

顧問 中井 仁



新しい世紀を迎え、硬式野球部OBの皆様にはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃

より、物心両面からの援助をいただき誠にありがとうございます。この度、4年のあいだ監督をお願いしてきた松枝洋氏が、ご就職を期に引退されました。監督就任中は、優れたリーダーシップを発揮され、チームの育成に大きな貢献をされました。顧問として感謝の念で一杯でございます。

本年3月からは、高48期の大西康雅氏が監督を、高51期の高品慶氏がコーチをそれぞれ引き受けて下さることになりました。様々な可能性のある学生時代の貴重な数年を、母校の後輩のために尽くしてくださる方々がこのように輩出するのは、やはり諸先輩方のお力添えがあればこそでございます。改めて御礼申し上げます。

さて、新体制になって初めての春の公式戦では、強豪チームが相手とあって大敗いたしました。しかし、これもチーム作りにおける生みの苦しみの一つであります。一年生の14人(内マネージャー3人)を加えてにぎやかになったチームで、今年も元気に活躍してくれることでしょう。公式戦における一勝を第一段階の目標として、なお一層チーム作りに励んでくれることを期待しています。

OBの皆様方には、今年もまた応援・激励のほどよろしくお願いいたします。

